

平成29年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月22日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①教育界における動向や生徒の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②生徒の確かな学力と学び続ける力を育み、主体的に学ぶ意欲を高める組織的な授業改善に取り組む。	①各教科において、学年ごとに生徒に定着させたい学力を明確にする。 ②生徒が自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を育成するとともに、主体的に学ぶ意欲を高めるための組織的な授業改善に取り組む。	①各学年の各教科における学力の到達目標と学習内容を明確に示し、可視化する。 ②授業に関する実態把握を行うとともに、生徒が主体的、対話的で深い学びができる授業の実践及び検証を行う。	①学年ごとに生徒に定着させたい学力を明確にし、可視化することができたか。(成果物等) ②授業の研究・実践・検証を行い、組織的な授業改善が図られたか。(生徒による授業評価結果等)	①②1学期に教科横断研修会を実施し、3年間で身につけさせたい学力を確認し、達成に向けた研修、研究授業を行った。 ②生徒による授業評価では、授業の充実感の数値がやや低下傾向であった。	①②年度ごとに効果を検証し、課題を明確化しながら研修を継続していくことが必要である。	保護者アンケートで次のような意見があった。 ・主体的な学びの場が十分ではない。 ・科目を選択できる点は良いと思う。 (保護者アンケート) 4段階3以上81% 2以下19%	①年度当初に年間指導計画を作成、公表し、実行することはできたが、「3年間で身につけさせたい学力」の明確化、可視化については継続して取り組む必要がある。 ②授業力向上研究チームを中心に授業研究・職員研修を行い、授業及び評価の手法について啓発することができた。	①来年度作成の年間指導計画については、「3年間で身につけさせたい学力」に基づいた策定を行う必要がある。 ②今後も、各種研修会に参加する教員の持つアイデア、ノウハウなどの資産を共有できるよう協働して取り組む必要がある。
2 生徒指導・支援	①基本的生活習慣を確立させるとともに、安全教育や健康教育をとおして、マナーや規範意識、いのちを大切にすることを育む。 ②生徒会活動をとおして、生徒の主体的な活動を支援し、自主・自律の精神を養う。 ③生徒一人ひとりが抱える課題にきめ細かな対応ができる組織的な支援体制の充実を図る。	①交通安全指導、特に自転車の交通ルールとマナー指導を徹底することをとおして、いのちを大切にすることを育む。 ③支援に必要な生徒を早期に把握し、組織的に支援することにより、課題の解決にあたる。	①日常における職員の共通認識による凡事徹底の指導の一環として規範意識の向上を図るとともに、警察署との連携による交通安全に係る講話や指導を実施する。 ③職員向け学習会等により支援に対する理解を深め、カウンセリングマインドを高めるとともに、職員個々の持つ情報を組織的な支援へとつなげる体制を構築する。	①自転車事故の件数を0に近づけることができたか。(事故件数) 規範意識を向上させることができたか。(交通安全講話等アンケート) ③職員個々の把握を組織的な支援に生かすことにより、課題解決につながったか。(職員へのアンケート)	①規範意識の向上に努めたが、10件の自転車事故があった。 ①交通安全講話後のアンケートでは、「講習会のおかげで意識するようになった」等の記述がみられた。 ③各学年教育相談担当及び教育相談コアで早期把握、早期対応をすることができた。あわせて、職員勉強会を実施し、「今後の課題解決に役立つ」とのアンケート結果が90%だった。	①引き続き規範意識の向上に努めるとともに、自転車事故0を目指す。 ③継続的に職員の意識啓発に努める。	保護者アンケートで次のような意見があった。 ・自転車点検などを実施してくれるのはありがたい。 ・車道中央を自転車で走る生徒がいた。 ・交通安全はマナーだけの問題ではない。 ・カウンセラー来校日がわからない。 (保護者アンケート) 4段階3以上86% 2以下13%	①校内の駐輪についてはとても改善されたが、事故件数を0件に近づけることはできなかった。 ③教育相談体制は充実してきた。	①引き続き交通安全指導を行うとともに、規範意識の醸成に努める。また、青葉署と連携した取組みを考えていく。 ③引き続きカウンセラー来校日の周知を図るとともに、職員の意識啓発に努める。
3 進路指導・支援	①社会的・職業的な自立を視野に入れた進路実現に向けて主体的に取り組む態度と能力を育成する。 ②ガイダンス機	①進路指導・支援の目的・目標を明確に示すとともに、個々の3年間の取組を俯瞰させることにより、将来を視野に入れ、進路実現に向けて	①3年間の進路活動とその意味を明確にした「指導マニュアル」及び「学びのポートフォリオ」を作成する。 ②キャリアサポーターとの連携による計画的・系統的な進路指導・支援を	①「指導マニュアル」を有効に活用し、一貫性のある指導ができたか。(「学びのポートフォリオ」の記載内容、外部模試等)	①指導マニュアルを簡潔にまとめた「進路実現の36歩」を全学年の廊下に掲示し、各学年で毎月初日に指導要点を再確認し	①3年間を36等分しその月に取り組むべき進路活動、学習、課外活動を可視化し累積的にキャリア能力、学力を高める枠組みを構築した。次に、生徒が主体的に統制していくことを目指したい。そのための	保護者アンケートで次のような意見があった。 ・講演会に部活で参加できない。 ・進路に専任の先生がいてくれるのは本当にありがたい。 ・色々な講演会があっ	①進路指導マニュアルとそれを簡潔にまとめた生徒向け「36歩」を制作することで組織的な進路指導と「見える化」を実現できた。 ①「点」の進路行事や単元学習を将来まで視野に入	①生徒・保護者が全体構造を見渡しながらか効果のある取組が出来るよう事前に計画的に進路行事を配置し、さらに振り返りの機会を確保する。 ①「36歩」の認知度を手帳、掲示、行事等のあら

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月22日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	能と相談支援体制の充実を図る。	主体的に取り組む態度と能力を育成する。 ②校内・校外の人的資源を生かし、きめ細かな進路指導・支援を行う。	行うとともに、外部人材を生かした取組を実施する。	②校内・校外の人的資源を生かすことができたか。 (キャリアサポーターや外部人材を生かした取組件数)	生徒の指導に当たった。 ①学びのポートフォリオ(記録用紙)を活用した。2学期より「市高手帳」試行版も活用し始めた。 ②総合的な学習の時間の講演会、キャリアアップ講演会4回、スタディーアップ講演会7回、ペアレントアップ講演会2回を実施した。キャリアサポーターは609名の進路相談を実施した。	ツールとして過去・現在・将来について記録し、改善のPDCAサイクルを循環させる本校独自のシステム手帳を制作し活用する。ポートフォリオは生徒手帳の機能を盛り込んだ「市高手帳」の中に生かし、生徒が学習時間を含め主体的に進路に向かう態度を育成したい。 ②3年間を見通して配置している各種進路活動が一過性の行事に終わらないようにするとともに、強化・補強し保護者を含めた関係者に提供する講演会をさらに充実させるために卒業生、有識者の一層の開拓と活用を行っていく。	てよい。 ・複雑な入試制度を分かりやすく説明していただき助かった。 (保護者アンケート) 4段階3以上89% 2以下10%	れたスケールで捉え直す作業を通じて「線」の取り組みとなるように図った。さらに学校行事や家庭学習まで見渡す「面」の進路指導を目指したい。 ①高大接続改革等の環境変化を先取りし余裕も持って対応できるよう、外部試験や「市高手帳」等の改善に努める。 ②総合的な学習の時間で学年進行の行事と、全学年生徒・保護者を対象としたミニ講演会を組み合わせることにより、きめ細かな進路指導となった。	ゆる機会に高め、生徒が自律的に進路や学習に取り組めるようにしたい。 ②大学入共通テスト(新テスト)、英語4技能試験等の内容を調査研究し高校3年間で無理なく達成できるよう進路、学習、部活動等の活動を円滑にコーディネートしていきたい。 ②部活動と進路行事が生徒の進路実現と自己実現に効果を発揮できるようさらに連携を深めていきたい。
4	地域等との協働 ①地域や保護者との連携を深め、協働の幅を広げるとともに、地域等の教育力の活用を図る。 ②学校からの情報発信を積極的に行い、地域や保護者に信頼される、開かれた学校づくりを推進する。	①コミュニティスクールを円滑に導入することにより、学校経営力を強化する。	①学校運営協議会との連携を核とし、生徒会、PTAと協力しながら、生徒の社会参画意識を促す地域との連携事業を実施する。	①学校運営協議会を計画通り5回開催できたか。(開催数) 地域との連携事業により生徒の社会参画意識が高まったか。(参加者によるアンケート)	①学校運営協議会を5回開催した。 ①「市ケ尾ユースプロジェクト」を実施した。 ①参加生徒のアンケートから、社会参画意識やコミュニケーション能力の高まりを読み取ることができた。	①引き続き運営委員会・部会の運営を円滑に行い、活動内容を広く周知し、学校の課題解決に生かす。 ①「市ケ尾ユースプロジェクト」を継続する。 ①地域との連携事業に多くの生徒が参加できるよう、募集案内を工夫する。	保護者アンケートで次のような意見があった。 ・実施の実態が生徒に伝わっていないと感じた。 ・身近に感じられない。 (保護者アンケート) 4段階3以上84% 2以下15% 参加生徒アンケートで次のような意見があった。 ・今まで味わったことのない責任を感じた。 ・予想以上の結果を得られて嬉しかった。	①計画通りに運営協議会や各部会を開催することができ、学校運営について様々なご意見をいただくことができた。 ①青葉区や地域との連携事業を実施するとともに、生徒の社会参画意識の向上を促すことができた。 ①活動内容についての情報発信が課題である。	①活動内容を広く知ってもらうためHPを利用して積極的に情報発信していく。
5	学校管理 学校運営 ①教育に関する国や県の動向を全ての職員がよく理解し、教育環境の変化に速やかに対応するとともに、協働により多様な課題に取り組む学校運営を実践する。 ②校内施設・設備の管理を徹底し、校内美化に努める。 ③防災体制の強化を図るとともに、事故・不祥事防止の徹底を図る。	②校内の現状を定期的に把握し、より安全で安心できる教育環境を実現する。 ③防災用品等の備蓄管理を徹底するとともに、災害時を想定した地域との連携を深める。	②破損箇所等の迅速な修理や先見性のある修繕を図るとともに、校内美化を推進する。 ③備蓄箇所の整備を行い、補充を含めた備蓄品の管理を徹底する。また、地域の避難訓練に参加し、地域の状況を把握する。	②より安全で安心できる教育環境を実現できたか。(修理・修繕の実施状況、校内美化の取組状況) ③防災体制の強化を図ることができたか。(備蓄品の管理状況、地域の避難訓練への参加状況)	②修理・修繕に迅速に対応し、ロッカーや下駄箱、教室・部室扉等の修理、不要物の破棄、校内清掃に取り組んだ。 ③青葉区災害ボランティアの立ち上げ訓練や自治会の防災訓練に参加し、経験を通して様々な知識を得られた。また、防災用テントなど一層の充実を図った。	②校内美化に向けて清掃の手順など明確にし、さらなる充実化を図る。 ③地域の災害訓練などから防災に向けた知識・経験を得るため積極的な参加を促す。	保護者アンケートで次のような意見があった。 ・トイレを全て改修工事して欲しい。 ・自転車点検や花壇整備、トイレの美化に努めている様子がわかりありがたい。 (保護者アンケート) 4段階3以上80% 2以下20%	②校内の破損対応や職員室前の折りたたみ机・ホワイトボードの設置など環境の整備を充実させることができた。 ③防災用品、備蓄食料の整備・管理は充実させることができた。	②修繕できる箇所は対応し、校内美化についてさらに取り組んでいく。 ③地域の防災訓練の参加から新たな課題を発見し、校内の避難訓練等をさらに充実させていく。

